

きんしゅう つづき
錦秋の都筑

酒 泉 彰 作詞
加羅古呂庵 一泉 作曲

2023. 7.27 作曲

1尺8寸管

尺八

歌(男声)

歌(女声)

箏I

花雲調子

箏II

花雲調子

十七絃

口 ピ

二 三 五 七 九 斗 為 巾

二 三 五 七 九 斗 為 巾

二 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけこうです。

錦秋の都筑

横浜市都筑区の秋は、里山や緑道の木々が色づき、赤や黄をはじめとして、さまざまな色に彩られます。そんな情景を、酒泉 彰氏が詩にしてくださいました。都筑の地は、近代的な街になりましたが、大切に残された豊かな自然が、色や音や香りを介して、秋の移ろいを感じさせてくれます。

街中を吹き渡る風白くなり 翳雲たなびく空は澄み渡る
 蝉時雨過ぎゆく夏とともに去り 凜凜とこおろぎたちの声響く
 宮谷戸の紅葉は池の鏡面に きらきらと二重になりて鮮やかに
 コスモスは早淵川に咲き乱れ 人知れず里山に咲く藤袴
 道の奥 日々染まりみる木々の彩 麗しき秋の深まる都筑かな
 街路樹の檜は深き琥珀色 秋日受け黄金の銀杏映えをりぬ
 白芙蓉花咲くほどに芳しく 山鳥が散り積もる葉に佇めり
 古民家の窓から臨む竹林 さらさらと金風伝ふ笹の音
 蕭条と夕日が沈む山田富士 残照に柿の実赤く輝けり
 薄野に名月昇る秋の夜 限りなき星の瞬く都筑かな ©2023 酒泉 彰

歌については、男声と女声による2部になっています。各パート1人でもいいですが、複数の合唱でもいいでしょう。楽器は、箏×2、十七絃、尺八ですが、どれか1パートは歌の旋律をなぞるようにしています。伴奏に終始するのではなく、歌と歌の間に楽器だけの演奏部分を設けました。

(注) 縦譜では、歌を箏(花雲調子)で記しています(男声は女声より1オクターブ下です)。尺八譜につきましては、当該楽器のほかに他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。正確には、五線譜(スコア)をご参照ください。

加羅古呂庵ホームページ

